

公益財団法人 サントリー芸術財団 音楽事業部

107-6019 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号 Tel: 03-3582-1355 Fax: 03-3582-1350

Nosfa0056 (2023.3.29)

第22回（2022年度）佐治敬三賞は
「北村朋幹 20世紀のピアノ作品
（ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品）」に決定



「北村朋幹 20世紀の邦人ピアノ作品」
(2022年10月9日)



「北村朋幹×ジョン・ケージ」
(2022年10月8日)



©TAKA MAYUMI

北村朋幹

公益財団法人サントリー芸術財団（代表理事・堤 剛、鳥井信吾）は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第22回（2022年度）受賞公演を「北村朋幹 20世紀のピアノ作品（ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品）」に決定しました。

●選考経過

応募のあった2022年実施公演について2023年2月12日（日）当財団会議室にて選考会を開催。慎重な審議の結果、第22回（2022年度）佐治敬三賞に「北村朋幹 20世紀のピアノ作品（ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品）」が選定され、3月27日（月）の理事会において正式に決定された。

●賞金 200万円

●選考委員は下記の 8 氏

伊藤制子、伊東信宏、片山杜秀、白石美雪、長木誠司、野々村禎彦、
船木篤也、水野みか子 (敬称略・50音順)

●受賞公演

「北村朋幹 20世紀のピアノ作品 (ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品)」

<贈賞理由>

「北村朋幹 20世紀のピアノ作品 (ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品)」は滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホールで行われた「20世紀の邦人ピアノ作品」と題された演奏会 (10月9日) と、その関連企画として滋賀県立美術館 エントランスロビーで開催された「北村朋幹×ジョン・ケージ」という演奏会 (10月8日) で構成されていた。メインはびわ湖ホールでの演奏会であるが、北村にとって後者におけるケージの《プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード》全曲は邦人ピアノ曲と時空を超えて応答し合う関係なのではなかったろうか。

武満徹の《2つのレント》に始まり、福島和夫《水煙》、柴田南雄《ピアノのためのインプロヴィゼーション第2番》、八村義夫《彼岸花の幻想》、松村禎三《ギリシャによせる二つの子守歌》、甲斐説宗《ピアノのための音楽》と続き、石井眞木の《ブラック・インテンションIII-息のためのピアノ練習曲-》に終わる、1960年代から70年代の作品を中心とした演奏会は、アンコールに演奏された高橋悠治の《秋のオーロラ CANTO I》を含めて実にさまざまなスタイルとアイディアを盛り込んだものであった。アンコールの高橋以外はすべて故人となった作曲家たちのピアノ曲を、こうした形でまとめてプログラム化するピアニストは、21世紀の現在そうはいない。そして、それらはかつて作曲者たちが存命中に頻繁に採り上げられていたころの演奏とはまったく異なったもの、すなわち不可視の歴史の襞を確実に感じさせつつも、時間の距たりのなかで変容してきた、純粹に今の視点から捉え直された作品として、どれもこよなく新鮮に響いた。作曲当時のアイディアを超えて、作品が新たな生命を吹き込まれつつ、不死性へと架橋された瞬間を聴き手は目の当たりにしてだろう。

石井作品では舞台上でのピアノのプリペアド (弦の間にねじやゴムを挟み、特殊な音響を作り出すこと) をも演奏の一部として感じさせながら、内省的で濃厚な時間の持続を途切れさせることなく、いわば北村自身の高密度の宇宙を描くような演奏会は聴き手に強いインパクトを与えた。

関連企画として行われたジョン・ケージ作品の演奏会は、オープンな空間で出入り自由の公演であったが、各回100人ほどの聴衆が各々の角度から聴き入り、誰も出ていこうとしなかった。事前に慎重に行われていたピアノのプリペアは、それ自体が「解釈」であり、同時に「演奏」の一部だったと言えるだろう。澄み切って、同時に深みのあるタッチで長大な作品が克明に描き出され、特に後半はひたすら演奏の集中力が増していくのが感じられた。今という時間上にある日本だからこそ生まれ得た思索的な演奏であり、北村の創り上げる宇宙はここでもひとびとを魅了してやまなかった。

(長木誠司委員・伊東信宏委員)

<公演概要>

名 称：「北村朋幹 20世紀の邦人ピアノ作品」

日 時：2022年10月9日(日) 15:00

会 場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 小ホール

曲 目：武満徹／2つのレント(1950)

福島和夫／水煙(1972)

柴田南雄／ピアノのためのインプロヴィゼーション第2番 no.31

(1968)

八村義夫／彼岸花の幻想 op.6(1969)

松村禎三／ギリシャによせる二つの子守歌(1969)

甲斐説宗／ピアノのための音楽(1974)

石井眞木／ブラック・インテンション III－息のためのピアノ練習曲－

op.31 (1977)

出 演：ピアノ 北村朋幹

主 催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

(関連企画)

名 称：「北村朋幹×ジョン・ケージ」

日 時：2022年10月8日(土) 11:00/14:00(2回公演)

会 場：滋賀県立美術館 エントランスロビー(入場無料)

曲 目：ジョン・ケージ／プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード

(1946-48)

出 演：ピアノ 北村朋幹

主 催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

共 催：滋賀県立美術館

以 上

(ご参考)

佐治敬三賞について

公益財団法人サントリー芸術財団(代表理事・堤 剛、鳥井信吾)は、故・佐治敬三(サントリー元会長、サントリー音楽財団元理事長)の功績を記念して、2001年度(平成13年度)から「佐治敬三賞」を創設しました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定されました。

この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は200万円です。

故・佐治敬三は、早くから文化事業への支援に力を入れ、特に音楽界においては1969年(昭和44年)に鳥井音楽財団(現サントリー芸術財団)を設立、サントリー音楽賞をはじめとするわが国の洋楽の振興を目的とした諸事業のほか、東京初のコンサート専用ホール「サントリーホール」の建設・運営などを行ってきました。

1999年11月3日に急逝した佐治の遺族から“音楽界のために役立ててほしい”として遺産の一部が寄付されたことから、当財団で検討した結果、「佐治敬三賞」の創設にいたしました。

これまでの受賞公演

第1回(2001年度)

「篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～」

2001年10月19日 東京文化会館 小ホール

「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ

～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」

2001年8月31日 横浜みなとみらいホール

第2回(2002年度)

「アンサンブル・ノマド2002年度定期演奏会#1」

2002年9月17日 東京オペラシティ リサイタルホール

第3回(2003年度)

「現代の音楽展2003 室内オーケストラの領域 III」

2003年3月17日 東京文化会館 小ホール

第4回（2004年度）

「三井の晩鐘」

2004年10月24日 イシハラホール

第5回（2005年度）

「next mushroom promotion vol. 8 『細川俊夫～50年のランドスケープ』」

2005年10月15日 ムラマツリサイタルホール新大阪

第6回（2006年度）

「武生国際音楽祭2006」

2006年9月2日～10日 越前市文化センター 他

第7回（2007年度）

「フランス現代音楽からの潮流～井上麻子×藤井快哉DUO」

2007年11月17日 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター

第8回（2008年度）

「実験室 vol.2 『偽のアレッキーノ／カンパネッロ』」

2008年3月27日・28日 ミレニアムホール

第9回（2009年度）

「クロノイ・プロトイ 第5回作品展～弦楽四重奏の可能性」

2009年12月9日 東京オペラシティ リサイタルホール

第10回（2010年度）

「井上郷子^{さとこ}ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」

2010年2月28日 東京オペラシティ リサイタルホール

「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」

2010年12月10日 東京文化会館 小ホール

第11回（2011年度）

「林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』」

2011年7月27日 門仲天井ホール

「児玉桃ピアノ・ファンタジーvol.1」

2011年9月17日 京都府立府民ホール “アルティ”

2011年9月19日 東京文化会館 小ホール

第12回（2012年度）

「kuniko plays reich in Kyoto」

2012年3月18日 京都芸術センター 講堂

「Sep.5 2012 Thanks to John Cage」

2012年9月5日 サントリーホール ブルーローズ

第13回（2013年度）

「東京現音計画#01～イタリア特集I：

コンポーザーズセレクション1・杉山洋一」

2013年9月13日 杉並公会堂 小ホール

「^{とうほうきたん}東方綺譚 “Nouvelles Orientales de Marguerite Yourcenar”」

2013年10月26日 津田ホール

第14回（2014年度）

「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレート》」

2014年2月11日 淀橋教会・小原記念チャペル

「ニンフェアール第10回公演 東洋と西洋の絃」

2014年7月20日 宗次ホール

第15回（2015年度）

「トム・ジョンソン《4音オペラ》」

2015年3月25日 杉並公会堂 小ホール

2015年3月28日 愛知県芸術劇場 小ホール

「DUOうたほぎリサイタル2015－春夏秋冬－」

2015年12月17日 東京オペラシティ 近江楽堂

2015年12月23日 青山音楽記念館 バロックザール（京都）

第16回（2016年度）

「伶楽舎第十三回雅楽演奏会～武満徹『秋庭歌一具』」

2016年11月30日 東京オペラシティ コンサートホール

第17回（2017年度）

「三輪眞弘+前田真二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』」

2017年12月8日・9日 愛知県芸術劇場小ホール

2017年12月16日 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

第18回（2018年度）

「第三回 伊左治直 個展 ～南蛮劇場」

2018年12月2日 求道会館（東京都文京区）

第19回（2019年度）

「THE 鍵 KEY（ザ キー）」

2019年5月19日・25日・26日

旧平櫛田中邸アトリエ（東京都台東区）

第20回（2020年度）

「ペルセポリス ～秋吉台で聴くテープ音楽～」

2020年9月5日 秋吉台国際芸術村 ホールおよび中庭

「ぎふ未来音楽展2020 三輪真弘祭 ー清められた夜ー」

2020年9月19日 サラマンカホールよりライブ配信

第21回（2021年度）

「オーケストラ・ニッポニカ第38回演奏会 松村禎三交響作品展」

2021年7月18日 紀尾井ホール

「オペラ『ロミオがジュリエット』世界初演」

2021年11月5日・6日・7日 THEATRE E9 KYOTO

第23回（2023年度）「佐治敬三賞」応募について

2023年1～6月実施公演の応募受付は終了しました。

2023年7～12月実施公演の応募方法は以下のとおりです。

- ・対象公演 2023年7月1日から12月31日の間に国内で実施される音楽を主体とする公演。
- ・応募方法 所定の応募用紙にて応募いただきます。公演の記録映像、録音、印刷物などがある場合は資料として提出いただく場合があります。応募要項・用紙は、当財団ホームページからダウンロード下さい。
- ・応募期間 2023年3月1日（水）から4月30日（日）
- ・お問合せ先 公益財団法人サントリー芸術財団 音楽事業部
〒107-6019

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階
私書箱509号

電話（03）3582-1355

FAX（03）3582-1350

<http://suntory.jp/sfamusic/>

以 上